

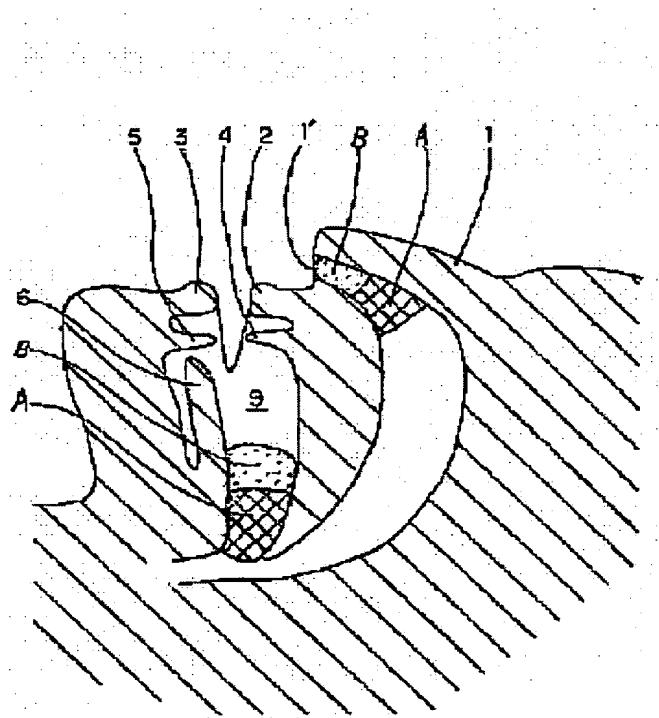
HEMOSTATIC AGENT EXCLUSIVELY USED FOR REMAINS

Patent number: JP8133901
Publication date: 1996-05-28
Inventor: KITAJIMA MIKISUKE
Applicant: KITAJIMA MIKISUKE
Classification:
- **International:** A01N1/00; A61L9/00
- **european:**
Application number: JP19940308059 19941107
Priority number(s): JP19940308059 19941107

Report a data error here

Abstract of JP8133901

PURPOSE: To obtain a hemostatic agent exclusively used for the remains not finding blood or dirt on the face, not generating offensive smell and capable of keeping mild and beautiful remains as if it is alive.
CONSTITUTION: This hemostatic agent exclusively used for the remains is used by mixing a natural vegetable deodorizing agent with powdery polymer, dissolving and stirring these materials in a proper amount of water to prepare a jelly-like hemostatic agent A, inserting and packing the jelly A into the inner part of nasal cavity 1' in the nose of the remains and the inner part of oral cavity 9 and the inner part of holes of ears by an injection, etc., stopping bleeding by the jelly A, eliminating offensive odor, plugging the outside part B with medical cotton and preventing leakage of bleeding and offensive odor to the outside.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-133901

(43)公開日 平成8年(1996)5月28日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 0 1 N 1/00

A 6 1 L 9/00

Z

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全3頁)

(21)出願番号 特願平6-308059

(71)出願人 594172444

北嶋 幹補

福井県福井市高木中央2丁目4105

(22)出願日 平成6年(1994)11月7日

(72)発明者 北嶋 幹補

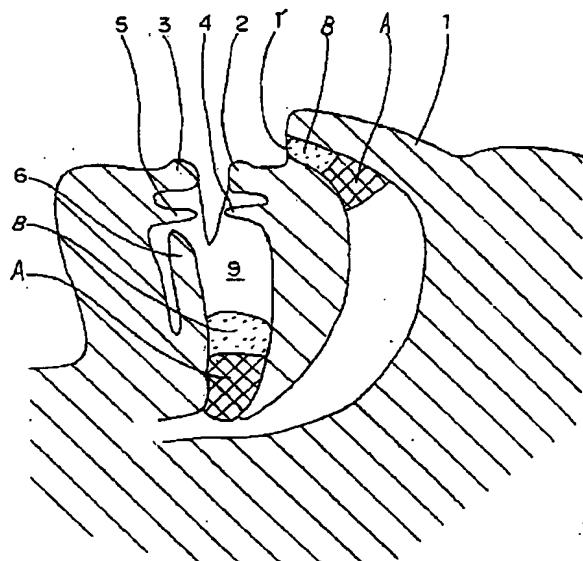
福井県福井市高木中央2丁目4105

(54)【発明の名称】 遺体専用の止血剤

(57)【要約】

【目的】 遺族が遺体に最後の対面をするとき、遺体の顔が血や汚物で汚れていたり異臭を発することがないように完全に処理され、あたかも活けるが如く穏やかで奇麗な遺体にすることが目的である。

【構成】 ゼリー、衛生綿の栓。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】消臭剤入りの粉末ポリマーを適当量の水で溶かし適当に混合してゼリーA状にし、遺体の鼻1の鼻腔1'の奥と、口腔9の奥と、耳7の穴8の奥等に注入器(図示せず)等で圧入し充満させ、該ゼリーAで出血を止め異臭を消臭しその外側に更に衛生綿で栓Bをして出血と異臭が外部に漏洩しないようにしたことを特徴とする遺体専用の止血剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】遺体の血止めと異臭防止に関する。

【0002】

【従来技術】遺体の処理には普通耳鼻口の穴に衛生綿で栓をして血や汚物が溢れ出るのを防いでいるが、遺体が脳溢血等や怪我負傷等の出血する死因で亡くなった場合は、それだけの処理では充分でなく往々にして衛生綿の栓を通過浸透して外部に出てくる場合がある、納棺した後でそのようなことになると大騒ぎで夜中でも後処理にかり出されて葬儀社は忙しい目にあう、遺族が最後の対面の時にもしも遺体から血が出ていては遺族の悲しみ一層深まり、葬儀社は叱りを受け、異臭が周囲に漂い大変困ることになるが、未前に完全防止できる方法の提供はなかった。

【0003】

【発明が決しようとする課題】

- 1、遺体の耳鼻口の穴から出血を防ぐ。
- 2、異臭が周囲に漂わないようにする。
- 3、処理作業が容易であること。

【0004】

【課題を解決するための手段】公害源にならない天然植物消臭剤に粉末ポリマーを混入し適当量の水で溶解攪拌しぜりー状の止血剤を造り、注入器で遺体の耳鼻口の穴の奥深く圧入して充満させ異臭を消臭し血を吸収凝縮し、かかる後衛生綿の栓をして目的を達する。

【0005】

【作用】適当量の消臭剤とポリマーを混合した粉末を計量スプーンで適量をすくいとり適量の水に混合攪拌しぜりー状にして注入器に入れ該ゼリーを目的箇所に圧入充満凝固消臭し衛生綿で栓をして目的を達する。

【0006】

【実施例】図面に従って詳細に説明する。

【0007】図1は、遺体の顔を側面から見た断面図

図2は、遺体の耳の周囲を正面から見た断面図

前記の如く、今までの葬儀には納棺する前に遺体を清め

10

2

耳鼻口の穴に衛生綿で栓をして血や汚物が溢れ出ることを防いでいるが、それだけの処理では往々にして衛生綿の栓を浸透通過して外に出てくる場合がある、もしも納棺した後でそのような事態になると大騒ぎして後処理に奔走することになるが何とかしてそのような事のないように完全に密閉する栓が出来ないだろうか、又漏洩すれば異臭が周囲に漂い困ることになるのでこれ等の解決が大きな課題であった。特に脳溢血や事故が死因の遺体は浸透通過する血の量が多くて困る。本発明は、これらの問題を根本から解決しようとするもので以下図面に基づき詳細に説明する。前記の如く図1は遺体の顔を側面から見た断面を示し、公害源にならない粉末の天然植物製の消臭剤を混合した粉末ポリマーとを適当量の水で溶解攪拌してゼリーA状にして鼻1の鼻腔1'や、口腔9や、耳の穴8等の穴の奥深くえ、差し込みが容易な注入器(図示せず)で圧入し、充満させ、凝縮し、消臭密閉して血や汚物の浸透漏洩を防ぎ異臭が周囲に漂うことがないようにして更に外側に衛生綿の栓Bで蓋をすることで遺体の処理を完全に終える。このときに注意をしなければならぬのはゼリーAの注入量が足らないことが無いように充分に圧入充填することと、衛生綿の栓Bが離脱しないようにしっかりと栓Bをすることが肝要である。

20

【発明の効果】

- 1、顔に血や汚物が見られず、異臭を発せず、あたかも活けるが如き穏やかで奇麗な顔の遺体であり遺族や会葬者達の最後の面接を理想的な雰囲気で終われる。
- 2、処置が簡単で容易である。
- 3、公害源になるような成分は一切使用していない。

30

【図面の簡単な説明】

図1、遺体の顔を側面から見た断面図

図2、遺体の耳の周囲を正面から見た断面図

【符号の説明】

A、ゼリー

B、栓

1、鼻

1'、鼻腔

2、上唇

3、下唇

4、上歯

40 5、下歯

6、舌

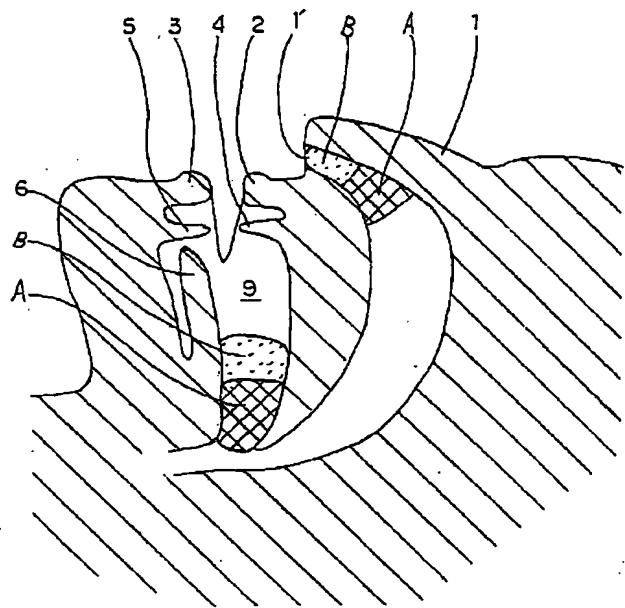
7、耳

8、耳の穴

9、口腔

40

【図1】



【図2】

